

静岡文化芸術大学 地元ワークショップ

1) 地元ワークショップ

稲梓地域、市内団体の方々計19名の方にご協力いただき、静岡文化芸術大学が企画・進行のもと、(仮称)下田北インターチェンジ周辺のまちづくりについて意見交換を行いました。

グループA (6名)			
NO	分野	所属	地区
1	地域住民	稲梓区長会	須原
2	地域住民	現箕作区長	箕作
3	教育子育て	稲梓小学校PTA	相玉
4	地域づくり	美しい里山づくりプロジェクト推進委員会	北湯ヶ野
5	産業(農林業)	下田市農業委員会	須原
6	まちづくり(広域連携)	静岡県賀茂地域局	

グループB (6名)			
NO	分野	所属	地区
7	地域住民	稲梓区長会	加増野
8	地域住民	前箕作区長	箕作
9	教育子育て	稲梓小学校PTA	箕作
10	地域づくり	美しい里山づくりプロジェクト推進委員会	須原
11	産業(農林業)	下田市農業委員会	北湯ヶ野
12	まちづくり(都市計画)	下田市景観まちづくり審議会	4丁目

グループC (7名)			
NO	分野	所属	地区
13	地域住民	稲梓区長会	椎原
14	地域住民	箕作区	箕作
15	教育子育て	稲梓小学校PTA	宇土金
16	地域づくり	美しい里山づくりプロジェクト推進委員会	加増野
17	産業(観光)	(旅館組合推薦) 清流荘支配人	須原
18	産業(文化)	下田市文化財保護審議会	箕作
19	まちづくり(広域連携)	静岡県賀茂地域局	



ワークショップでは地域の防災、交流、観光、日常生活を支える具体的なアイデアが議論され、まちづくりの方向性が明確になりました。

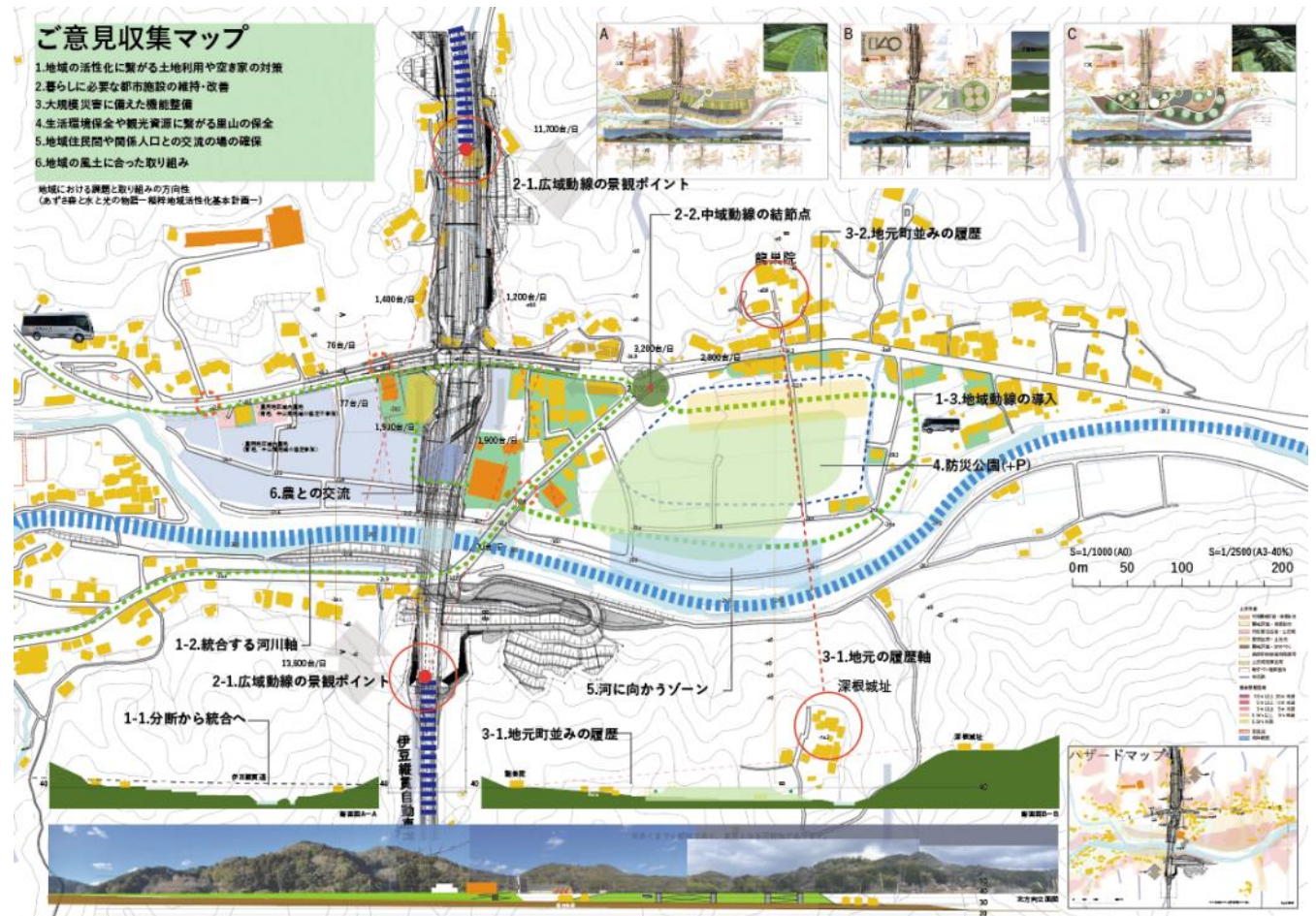
①2024年9月22日のワークショップ

意見の整理

- ・ 稲生沢川を活かすことが共通の意見として抽出。
- ・ 各グループが「事業」「ランドスケープ」「交通」「導入施設」「防災」の項目で意見を整理。

具体的な提案例

- ・ 川沿いに子供の遊び場を整備(盛り土や広場、遊具設置)。
- ・ 夏場に安全な川遊び場を設置(ライフセーバー常駐)。
- ・ 地域拠点として道の駅や診療所の移転を提案。
- ・ 美術館の分館や温泉施設の設置。
- ・ 防災拠点として学校跡地の活用。



WSで使用された図面

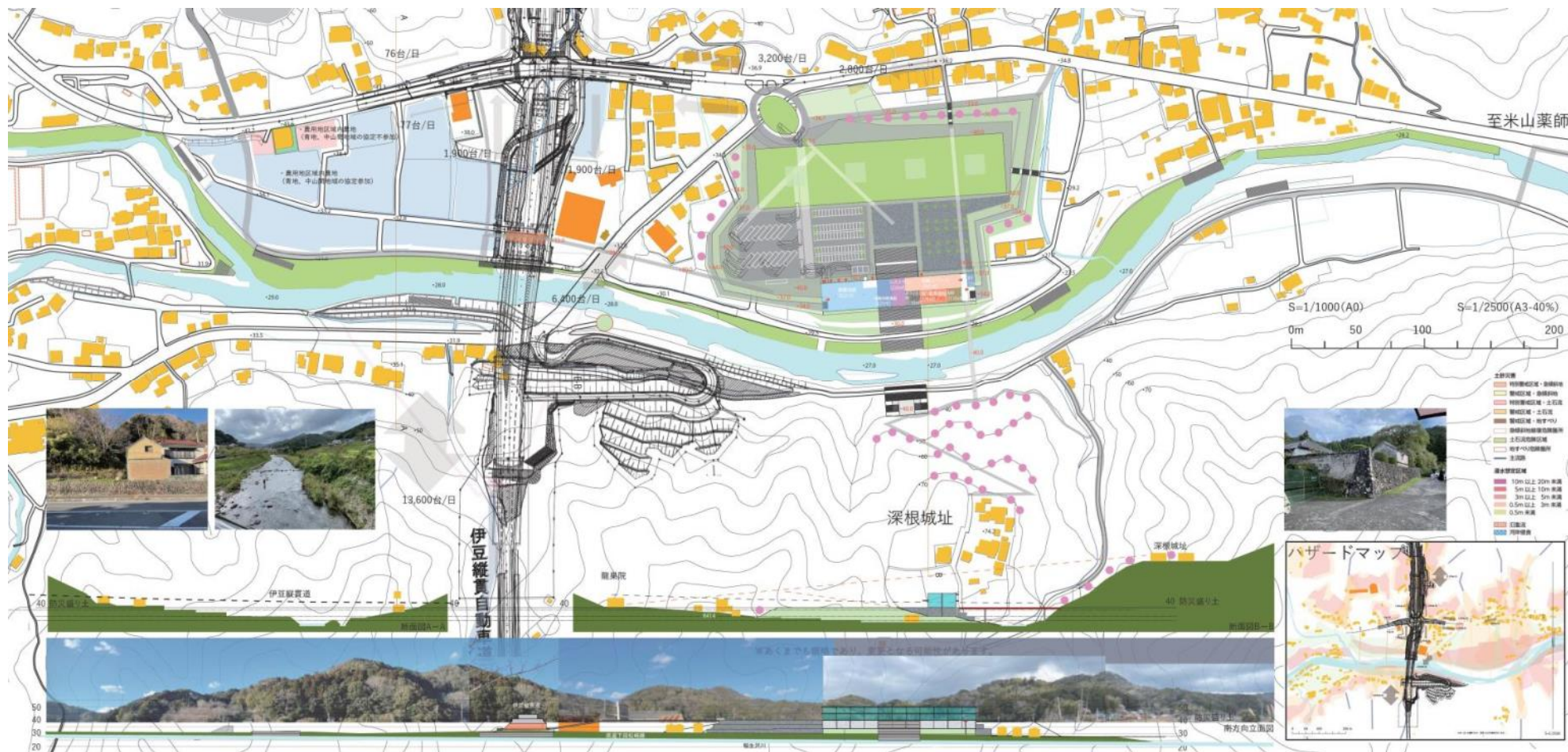
②2024年11月24日のワークショップ

基本計画案の提案

- 地域住民の意見やアイデアを3グループでまとめ、プレゼンテーション。

具体的な提案例

- 地元の方々が集まれる場所として地域ブランドの物産店や温浴施設を設置。
- ICからの集客性を高める施設の提案。
- 防災施設として日常時から情報発信を行う拠点を設置。



WSで使用された図面

2) 静岡文化芸術大学報告書(地元ワークショップより)

地元ワークショップを踏まえ、(仮称)下田北インターの周辺まちづくり案としてまとめられたものです。

①広域と地元から考えるまちづくりの将来的ビジョン

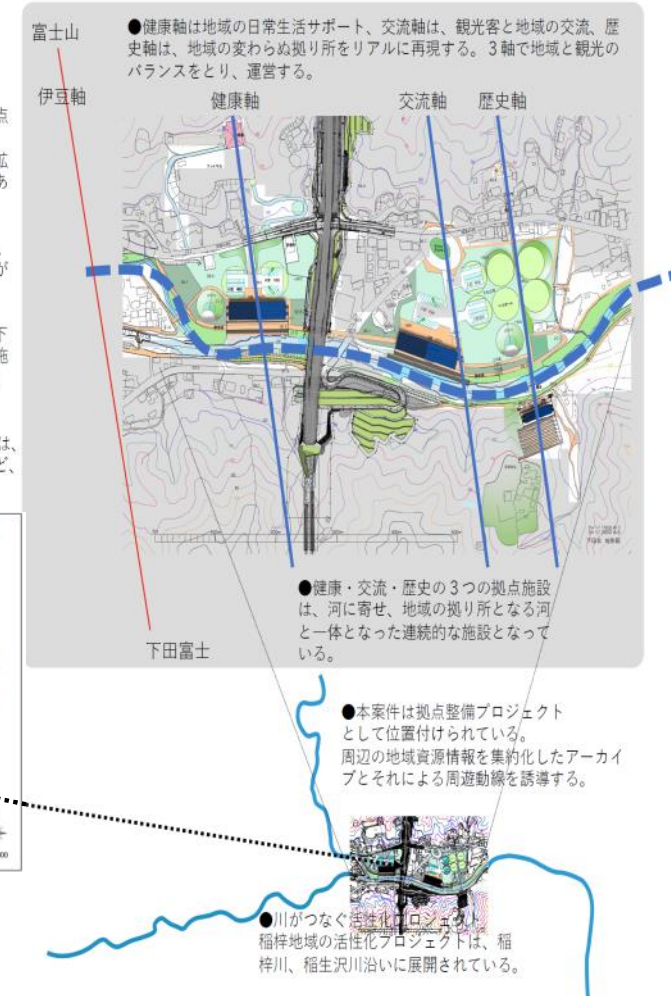
- 伊豆縦貫道と下田北ICを活用すると、伊豆地域の多様な交通網が想定される。
- 稲梓地域では川沿いにさまざまなプロジェクト(稲梓地域活性化基本計画)が設定され、下田北ICはその中心に位置する。
- 地域住民と来訪者の双方に貢献するために、健康軸・交流軸・歴史軸を設定した(三つの軸は富士山ー下田富士の軸とほぼ同様の角度となる)。
- 伊豆縦貫道の広域からの流入と地域への拡散を生むことは、積極的に留意すべきである。

山ー下田富士の軸とほぼ同様の角度となる)。



出典：h19.3月 伊豆縦貫自動車道 道路空間高度化整備指針(案)

稲梓地域活性化基本計画



- 箕作三叉路から松崎町に向かい、駿河湾フェリーを活用した駿河湾海遊路が成立する特徴あるICとなりうる。
- 下田北ICで降りたら、下田市街地には下道で到着できる。
- 開通した場合の伊豆縦貫道の終点下田は、従来型の海水浴や下田の観光資源巡りなど、現状以上のPRができる可能性あり。

② まちづくりの提案

基本方針 その1：稲生沢川を活かす

- ・ 稲生沢川を活かすことを主軸とする。
- ・ 伊豆縦貫道と交わる稲生沢川は、交流拠点の敷地を超えて地域の景観資源となる。

基本方針 その2：防災を確実にする敷地・造成計画

- ・ 稲生沢川の河川洪水における浸水深(想定最大)は、約4.0mであり、国道交差点と河川沿いの高低差は8.0mある。
- ・ 川側の親水を目的とした床レベルを33m、交差点の標高に合わせた地盤高を基本とする。
- ・ 川近くの住宅地は浸水のリスクがあるので、直近で造成地にアクセス可能にすることが必要である。

基本方針 その3：広域防災拠点機能

- ・ 広域(1市3町)の救援復旧作業基地
- ・ ヘリポートは、上記計画で設定している駐機数7～9機には及ばず、箕作広場や中学校跡地などとの連携が必要である。
- ・ 他の必要面積も設定通りには取れないが、ヘリポートの着陸の安全性、緊急物資の取り扱いや、消防・医療活動のスペースなどを施設との連携性を持って確保した。備蓄施設については、常時保管の物量と緊急物資とのバランスなどを検討する必要がある。

基本方針 その4 :歴史を大切にする

- 龍巢院と深根城址の間には、その方向に沿った参道的な道筋がある。

基本方針 その5 :地域資源を発信する

- 地域の物産館として集客機能を持たせる。
- 川への景観を楽しめる空間。
- 周辺の住宅への圧迫感を軽減させる。

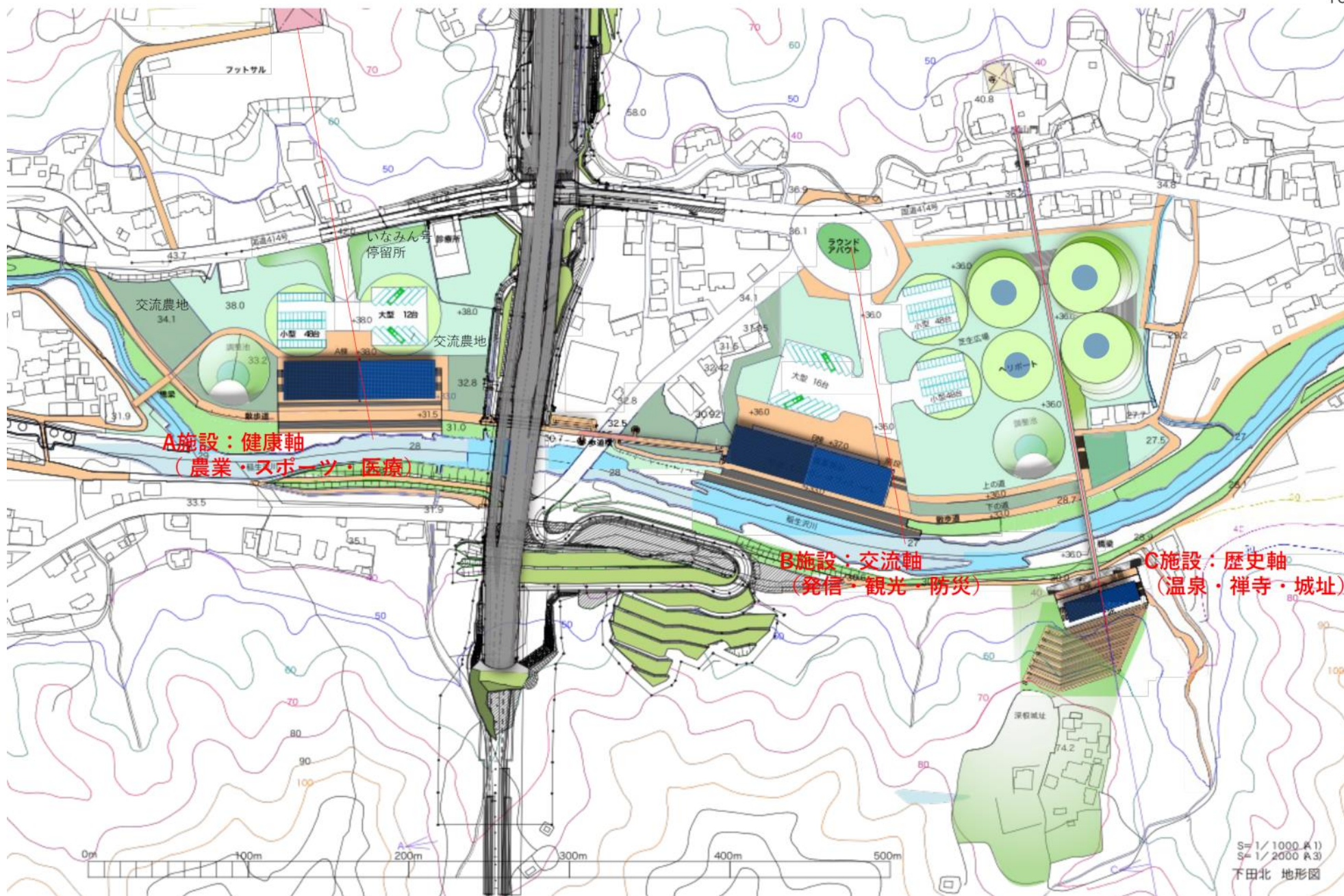
基本方針 その6 :導入機能を設定する

- 施設の運営や規模感については、道の駅:伊豆月ヶ瀬が参考になるので、これを基準に今回の駐車場や導入施設の面積を算出した。

基本方針 その7 :地域の日常をサポートする

- 西側区域は、診療所、中学校跡地や体育館との連携を考慮し、地域の日常をサポートし健康増進につながる施設を設置する。
- フットサルやスケボーなどのスポーツ施設や交流農業、薬局施設などを配置する。造成にあわせて診療所前のいなみん号停留所を再整備し、待ち時間も快適で各施設にアプローチしやすい空間とする。

導入機能

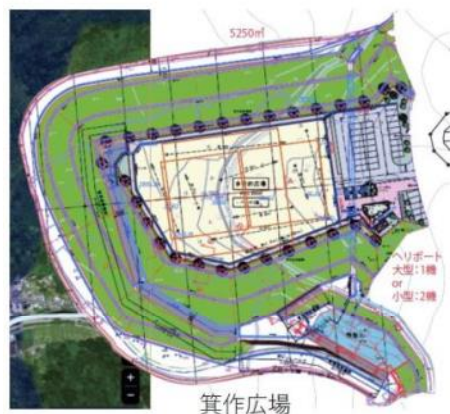


広域防災拠点機能

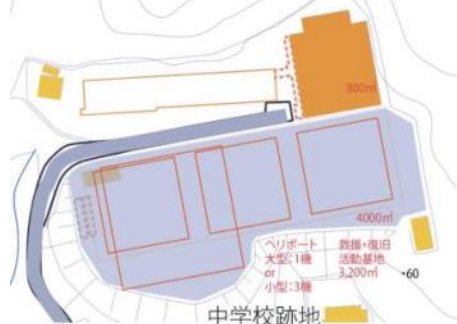
下田市の「伊豆縦貫自動車道（仮称）下田北IC周辺まちづくり整備構想～参考資料～ 広域防災拠点としての機能を有する道の駅等の必要規模の算出（たたき台）」（R6.2.9現在）、名古屋圏広域防災ネットワーク整備・連携方策検討委員会（第4回）「資料2 ケーススタディの実施方法等（案）」（H.15.9.24）を参照して、必要機能と面積を設定した。

ヘリポートは、上記計画で設定している駐機数7～9機には及ばず、箕作広場や中学校跡地などとの連携が必要である。他の必要面積も設定通りには取れないが、ヘリポートの着陸の安全性、緊急物資の取り扱いや、消防・医療活動のスペースなどを施設との連携性を持って確保した。備蓄施設については、常時保管の物量と緊急物資とのバランスなどを検討する必要がある。

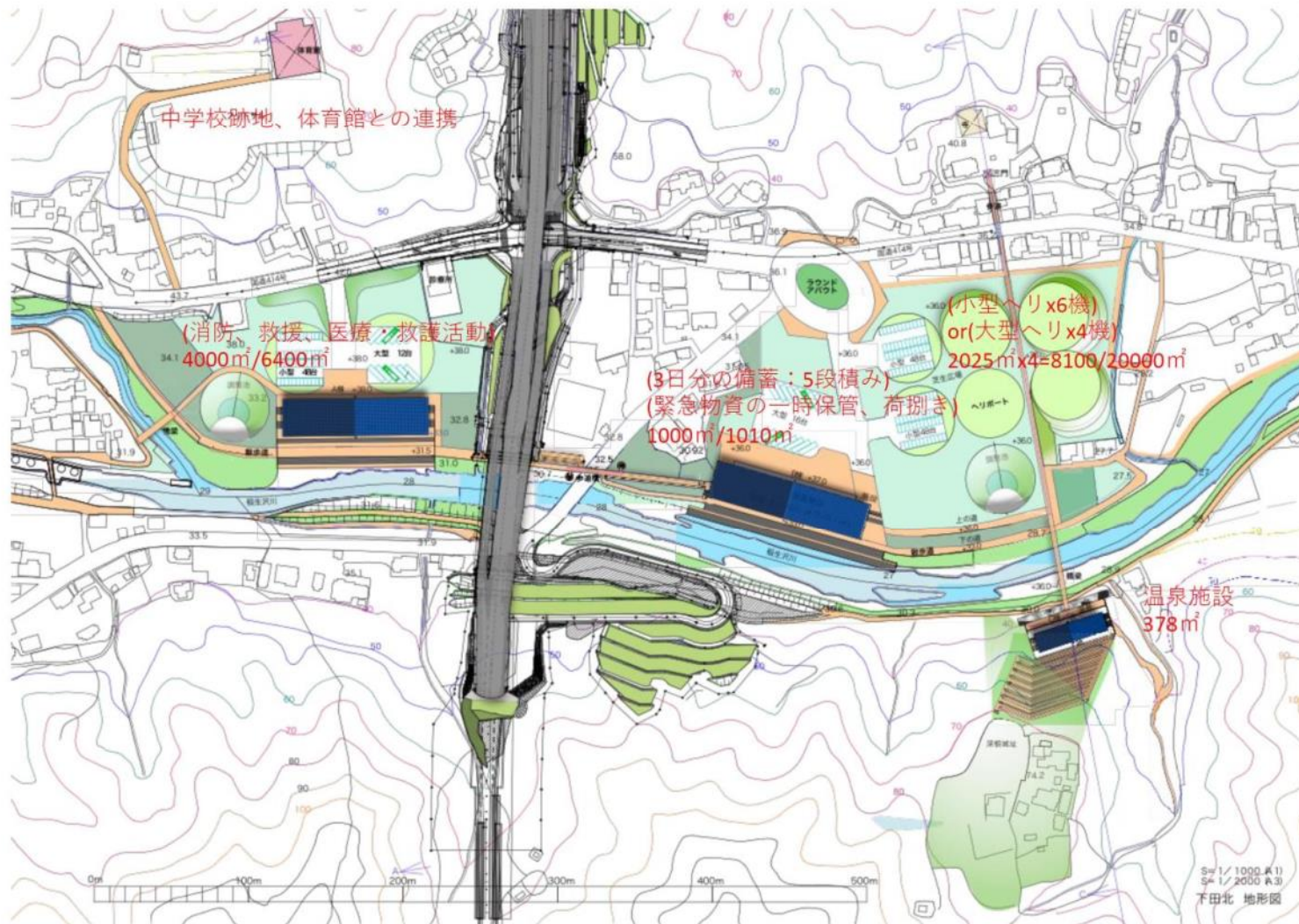
想定する防災機能の必要規模									
	大型機	中型機	小型機	被災者数	1人当たり面積 ㎡	3日分物資重量 t	1t当たり面積 ㎡	1日当りに補正 /3	棚5段に想定 /5
1 ヘリポート	2,025	1,296	900						4,221.0
2 緊急輸送物資の中継・受入れ・一時保管場所				15,878	0.5				7,939.0
3 消防、救援、医療・救護活動				15,878	0.4				6,351.2
4 救援・復旧活動基地				15,878	0.2				3,175.6
5 緊急物資の備蓄場所/荷さばき・一時保管						421.0	12.0		5.0
6 救援物資が輸送される際に必要な駐車スペース						421.0	50.0	3.0	
5,6:名古屋圏広域防災ネットワーク整備・連携方策検討委員会（第4回）「資料2 ケーススタディの実施方法等（案）」H.15.9.24									



箕作広場



中学校跡地



③ 施設計画

地域の健康、交流、防災、観光を支える多機能な空間として設計。

A施設(健康空間)

- * 物販施設: 薬局やコンビニを誘致し、地域の日常的な買い物をサポート。
- * 農業センター: 体験農園の管理、農業系物販、休憩カフェなどを提供。
- * スケボーパーク: 半屋外空間でスケートボードを楽しめる施設。
- * 広場: イベントやマーケットを実施可能な空間。
- * 親水テラス: 川遊びや展望を楽しめるスペース。

B施設(交流空間)

- * 備蓄施設: 常時備蓄と緊急輸送物資の保管場所。
- * 道路休憩施設: トイレ、情報案内所、休憩所の機能を持つ。
- * レストラン: 地元食材やジビエ料理を提供。
- * 物販スペース: 地域ブランドの物産販売。
- * 展望広場: 吹き抜けを活かした展望スペース。
- * ピロティ: イベントやポップアップショップを開催可能。

C施設(温浴空間)

- * 温泉施設: 日常的には温浴施設、災害時には貴重な浴場として機能。
- * 休憩施設: 温泉利用者向けの休憩スペース。
- * 展望テラス: 景観を楽しめるスペース。
- * 深根城址へのアクセス: 石積みの擁壁をスロープで登れる設計。

その他の機能

- * ヘリポート: 災害時の緊急輸送や救援活動に対応。
- * 駐車場: ユニバーサルデザインで災害時には荷捌き場として活用。
- * 自動運転電動カート: 高齢者の移動をサポート。

④ まちづくりの風景

敷地には、下図に示すような多様な活動を誘発する仕掛け(デザイン)を配置している。また、地域のための散歩道(避難路含む)を巡らせ、既存道路と接続して歩行動線のネットワークを形成している。

